

#### 第43回中央委員会・真島委員長・挨拶概要

第43回中央委員会にリモート参加している中央委員の皆さん、ご苦労様です。

中央委員会開催にあたり、中央執行委員会を代表し挨拶をいたします中央執行委員長の真島です。

最初に、今回の中央委員会も昨年に引き続き、このような状態で開催しなければならない状況に非常に残念に思っています。

労働運動、労働組合の基本は顔を合わせ互いに激論を交わしながら進めていくことが極めて重要であると理解しています。

しかし、今日の状況は新型コロナの新たなオミクロン株の拡大が全国に蔓延しています。一部ではオミクロン株はさほど重症化しないとかわかっていますが、中央委員会は全港湾の地方本部や支部を代表する幹部で構成されている点を考えれば、万が一感染した場合、たとえ軽症であろうとも、隔離を余儀なくされ、大事な春闘交渉への組合幹部が不在となる状況、そうした状況を避けることも、中央執行委員会の大きな判断であるのご理解をお願いしたい。

昨年9月の定期大会でも、発言しましたが、私は、コロナという伝染病の感染は誰のせいでもない、だから私自身が感染したとしてもしょうが無いと考えています。しかし、私の感染によって、周囲に感染させてしまう方がもっとつらい、だから私は万が一の感染に備え、いち早く感染を自らが早く知るために今年に入りすでに5回のPCR検査を実施して自らの感染状況を把握しています。2020年の春から始まったコロナ禍の現状、こんなに長引くと誰が想像したのでしょうか？

港湾労働者・トラック労働者は物流を担う重要な仕事です。リモートワーク、在宅勤務なんてことは絵空事です。すでに組合員の方々はワクチンを2回接種した方が多いと思いますが、諸外国の事例でわかるようにワクチン接種による差別をおこなさないようお願いしたい。

さて、私たちは、どんなに感染拡大しようが、最前線で働かざるを得ないエッセンシャルワーカー、運輸関連の職業労働者です。運輸といっても、物流関係労働者です。コロナ禍にあって、その影響で大きく取扱量が減少

している港と一定の取扱量が保たれている港があります。貨物は減少しているとは言えど、日々の作業に従事している状況であろうと考えます。すなわち今の社会情勢において港湾や運輸は極めて重要な産業であることを再認識し、普通に生活できる賃金の確立を求めていかなければなりません。

コロナ禍での春闘、労働組合、労働組合幹部の力量が試される 2022 年春闘です。苦しい状況であるが故に、現状の賃金や労働条件、作業環境を引き上げていくことが労働組合幹部の使命です。

こんな時代だからこそ、何を最優先課題とするのか、当面は新型コロナと向かい合いながら運動を前進させていく方向性を見出し、全国の仲間と共有していかなければなりません。

昨年の賃上げ妥結状況をみれば、2021年の賃上げは、6月の最終集計で全港湾は、闘争分解で平均3372円、速報分会3623円です。

3000円ちょっとです。一方、経団連発表の大手130社平均は、2%を割ったと言いながらも、6153円です。明らかに格差が拡大しています。このままでは、港湾自体が魅力を感じてもらえず、人員不足が更に加速します。すなわち、今働いている世代にしわ寄せだけがのし掛かり、負のスパイラルに陥りかねません。

今年の2022年春闘は、賃金を取りに行く春闘、大幅な賃上げを目指す春闘にしていかなければならない。魅力ある全港湾運動を前進させるために賃上げを勝ち取ろう。

最後に、今回の中央委員会は、組合員の皆様のご協力によるリモートでの開催となります。おそらく2年続いているコロナ禍での春闘、なれない交渉形態をとらざるを得ない状況は、もう少しの間、耐えなければなりません。そして、今、私たちにできる最大限の事を一つ一つ築き上げ、決して諦めたり、甘んじたりすることなく、全港湾の春闘を闘い抜いて、再度、通常の大衆議論を進めることができると確信していることを申し上げ、挨拶いたします。

よろしく願いいたします。